

マンガで学ぶ予防接種 ～染子先生のおはなし～

その⑦

ロタウイルス胃腸炎ってなあに？

国立感染症研究所 感染症疫学センター



ロタウイルス胃腸炎とは？

ロタウイルスが引き起こす胃腸炎は、急な嘔吐^{おうと}と水のような下痢^{げり}便が特徴です。発熱は3割から5割程の割合で見られます。

時に、嘔吐・下痢がひどくなって、脱水状態になったり、けいれん（ひきつけ）を起こすことがあります。腎臓の機能が悪くなったり、脳症を起こすこともあります。

子どもが重症の胃腸炎で入院する場合、ロタウイルスが原因であることがもっとも多いとされています。

ロタウイルスワクチン

ワクチンは2種類あり、ヒトロタウイルスの病原性を弱めて作った1価弱毒生ワクチンと、ウシとヒトのロタウイルスの遺伝子を組み換えて作った5価弱毒生ワクチンです。

いずれのワクチンも、口から飲むタイプの経口ワクチンであり

主には、次に挙げる遺伝子型のロタウイルス G1P[8]、G2P[4]、G3P[8]、G4P[8]、G9P[8] による重症の胃腸炎に対して予防効果があります。ただし、ロタウイルス以外が原因の胃腸炎を予防することはできません。

ロタウイルスワクチンの副反応として、稀ながら腸重積症があります。

ワクチンを受けた後、特に、接種後1～2週間以内に繰り返し起きる

嘔吐^{おうと}や不機嫌、周期的にお腹が痛そうに泣く、血便、お腹が張る、

ぐったりとしていたり顔色が悪かったりするといった症状が1つでもみられた

場合は、腸重積症の可能性もあるので、すみやかに医療機関を受診してください。

腸重積症の発症が高まる可能性のある、未治療の先天性消化管障害（メッケル憩室

など）や、過去に腸重積症になったことのある赤ちゃん、重症の下痢^{げり}の発症が高まる可能性のある重症複合型免疫不全症（SCID）の赤ちゃんは、接種を受けることができません。

出典：『予防接種と子どもの健康 2020年度版』より引用一部改変



定期接種の対象・接種方法

〔接種週齢〕 1価：^{★1}出生6週0日後から出生24週0日後まで

5価：出生6週0日後から出生32週0日後まで

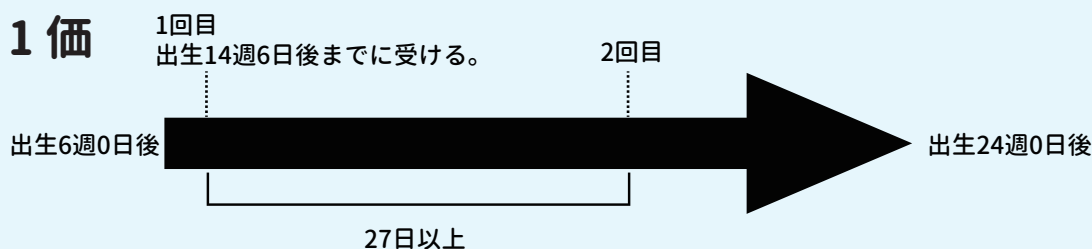
〔接種間隔・回数〕 1価：2回(27日以上の間隔をあけて2回目接種。出生24週0日後までに完了)

5価：3回(1回目と2回目、2回目と3回目は27日以上の間隔をあけて接種。

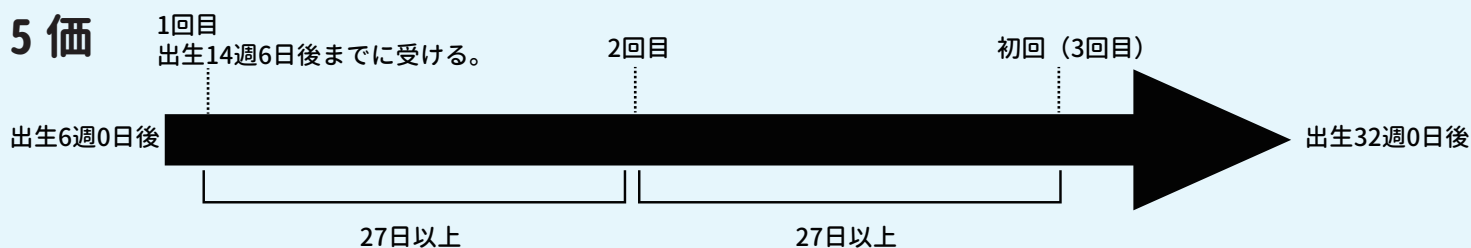
3回目の接種は出生32週0日後までに完了)

※接種時期が遅くなると、腸重積症の発生割合が増加するため、1回目は生後2月に至った日から出生14週6日後までの間に受けることが大切です。ロタウイルスワクチンは出生6週0日後から接種を受けることができますが、初回接種の標準的接種期間は生後2月に至った日から出生14週6日後までとされています。

1 価



5 価



ロタウイルスワクチンが導入されてからは、ロタウイルス感染症が減少しています。さらに、直接効果だけでなく集団免疫効果も認められています。ロタウイルスワクチンについては、令和2（2020）年8月1日以降に生まれた赤ちゃんを対象に令和2（2020）年10月1日から定期接種となりました。有効性、安全性を考えた上で、接種年齢の幅が決まっているので、初回接種は、生後2月に至った日から出生14週6日後までの間に受けましょう。

かかりつけの小児科の先生とよく相談して、赤ちゃんをロタウイルス胃腸炎から守ってくださいね！